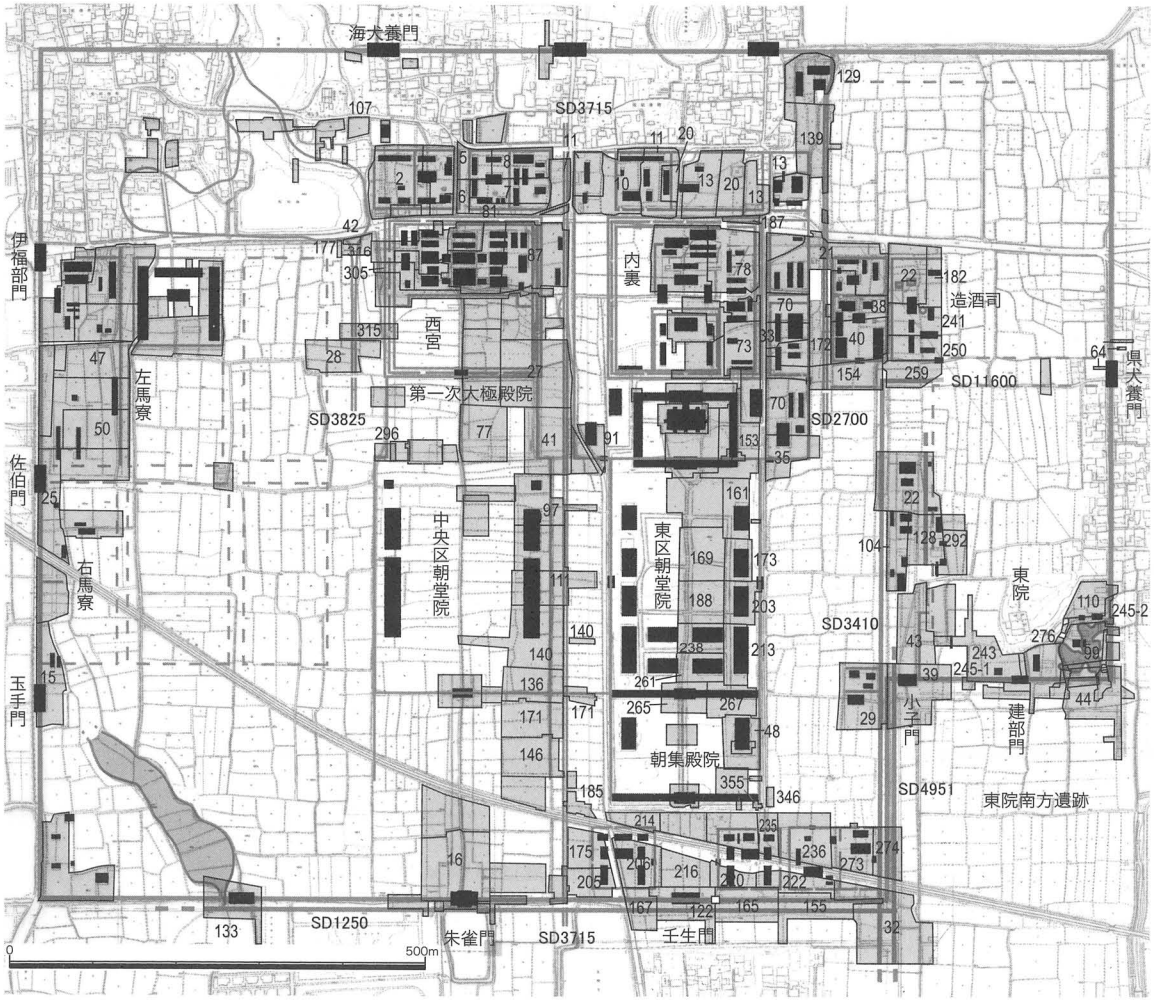
Ⅰ　はじめに

本書は、奈良文化財研究所（前身の奈良国立文化財研究所も含めて、以下、奈文研）がおこなった2004年度までの発掘調査のうち、平城宮跡から出土した陶硯の全点を集録するものである。

奈文研の約50年にわたる平城宮跡の発掘調査は、2004年度までに発掘面積約39万㎡、遺跡総面積の約３割を越え、２つの大極殿院・朝堂院、内裏等の中枢施設、その周りの諸官衙施設について、配置や変遷の大要を把握できるようになってきた。この間、出土した陶硯は、転用硯を除き533点を数え、平城京・寺院出土資料を含めると1100点を越えている。陶硯は木簡や墨書土器とともに文字の使用を明確に物語る考古資料であり、出土遺構、伴出遺物、生産地、年代観、使用形態など様々な検討を加えれば、遺跡・遺構に対する知見を深め、官衙の性格や実態の考究に役立つ資料となるであろう。

陶硯研究は主に型式分類と変遷について行なわれてきたが、格段に増加した遺跡出土資料の多くが未報告である現状が、古代陶硯をめぐる諸問題を検討し、古代史の総合的研究の史料とすることへの障害の一つとなっている。最大の消費地、平城京出土陶硯は、生産地を含めた全国の陶硯出土遺跡の研究にとっても重要な資料であり、「墨書土器集成」にならい本資料集を計画した所以である。



平城宮跡発掘調査地位置図